

七月三日

六時前起床。昨夜半彫りあげた銅版に再び手を入れる。ようやく、マアマアの感じになってきたので小休止。これ以上は一度プリントしてもらってから手を入れた方がよい。七時半過再び寝る。大版の銅版に彫りたいモノが湧いてきているので、今日、明日で六枚全部やってしまおうか。しかし、パウハウスのセオリー・セクター構想は興味深い。ツインーマン学長はその為はずっと八レベルの国際的カンファレンスを開催してきた。日本からは柄谷行人も呼ばれた。ポードリヤールも来た。シカゴのサスキア・サッセンともワイマールで会った。その蓄積がパウハウス・セオリー・セクターになってゆく。こういう考え方、構築性というか、背骨が日本では仲々視えない。全て個人の努力に帰してしまう。日本語文化の限界か。しかし、私の語学力ではどうにもならない。せいぜい眼で視えるモノで考えを伝えていくしかないな。

十時半屋上菜園に上る。春に雑草抜きを丹念にしておいたので、今年の夏の屋上は荒れていない。程々の草花と程々の雑草が混在している。トマトは今年も駄目だ。陽光が強過ぎるか、土がやせているのか、風が通り過ぎるのか。ていねいに育てなければ野菜はダメだな。十三時研究室。社若松社長と会う。若松さんの熱意に押し切られて夏にモスクワに出掛けなければならなくなった。ロシアも今や日本の高度経済成長期のような。何しろ、行って見てくださいというわけである。E.T.ビジネスの人間は感性先行型の人

間が多いのだろうか。十五時幸脇夫妻来室。軽井沢の家がほぼまとめられる迄になった。十六時プロダクトミーティング。ペイヤオのセンスが光っている。近々住宅をやらせてみる事を決断する。雑務を少々こなして十八時過大学を出る。夏の夕暮れらしい空気の中を帰る。こんな時には様々に色んな考えが湧いて出たものだが、今はそれはない。年令ではない。体調が良くないのだろう。十九時烏山宗柳で夕食。宗柳のオヤジと久し振りに話す。オヤジもけがをしたり、何やらで大変だったらしいが、まずはキッチンと生きていて良かったね。長女徳子にごちそうになった。

七月四日 日曜日

七時前起床。おだやかな初夏の朝だ。今日は終日銅版画に取組む。森の学校のデザインに少し光明が視えてきている。八時過二点目の大判銅板彫りすすめ小休。一点目にも手を入れる。次は一番大きい奴に手をつけてみるか。無心になれるのが救いだなコレワ。九時半二点目ほぼ目途がつく。朝食。十二時前三点目。午後二にエネルギーが残っていたら四点までいけるだろう。少休。流石につかれた。十六時前三点目ほぼ終了。急ぎ過ぎててもいけないので手を休める。一番大きいのは手がつかないか。十七時原口氏来宅。二〇時前銅版に向かうのに疲れ小休。今日は三点手がついた位で満足しなくてはならないか。時間のスキマで佐藤健の「阿弥陀が来た道」「ルポ・仏教」「フェリックス・ガタリのカオス・モード」読む。読み直してみると佐藤健は仲々のものである。二十四〇分、本の拾い読みを終えて、休む。今日はもう銅版に取組む気力がない。色々と考えた日曜日だった。銅版に彫り続けているモノが何なのか、まだ解らないが、いずれ解るのだろうという予感はある。銅版を見た原口氏はノアの方舟なんじゃないと言っ

だが不思議なインスピレーションを持った人だな。トルコのアララット山の頂近くにノアの方舟が埋まっているらしい事を知ったのはもう二〇年近くも昔のアナトリア高原の旅であった。以来この神話だけは非常にリアルに信じられる自分を知っていた。その類のモノへの神話学的憧憬が彫られているのかも知れないな。